

音楽家 CV の書き方について

履歴書にあたる CV ですが、日本の履歴書とは違い、決まった書式はありません。また、日本の履歴書と違い、ただ学歴や職歴などの情報を載せるというよりは、自己アピールをするための書類です。アメリカでは「Resume」(レジュメ、フランス語が語源)とも呼ばれますがヨーロッパではフランスも含め「CV」が一般的に使われています。必要な項目を説明します。

①ヘッダー部

個人情報 Personal Information

現代では、名前と連絡先(住所、電話、メールアドレス、持っていればウェブサイトのアドレス)のみを記載することが一般的です。英語圏では写真は不要ですが(人種が判断できることによって起こる差別を防止するため)ヨーロッパ大陸側では写真の貼り付けが一般的です。提出先の求めに応じて準備してください。

・**名前:** 芸大和音(ゲイダイガズネ)さんの場合、

Kazune GEIDAI もしくは **GEIDAI, Kazune**

大文字にすると名字であることが確実に伝わります。また名字を先に書く場合は、カンマを入れます。パスポートと同じ綴りを使って下さい。アーティストネームがある方はその旨も記載してください。

・**電話番号**

電話番号には必ず国際番号+81 をつけ、頭のゼロにかっこをつけます。

例: +81 (0)90-1234-5678

固定電話は **Phone**、携帯電話は **Mobile** です

・**住所**

日本の住所は当然ですが日本国内でしか利用されません。無理に外国式に記す必要はありませんが、日本とは逆に小さな行政区から順番に書くようにしてください。

京都市西京区東町1丁目2-3だとすれば

1-2-3 Higashimachi, Nishikyo-Ku, Kyoto, Japan

Postal Code 555-5555

以上のように書いてください。「市」や「丁目」は省き、「区」は訳さなくても大丈夫です

②教育 Education

日本とは逆に最新のものを一番上に記載するようにしてください。見やすいようにレイアウトも工夫してください。マスタークラスや個人レッスンの受講歴も含めて結構ですが、**Education & Training** として学校で受けたものと他のレッスンを分けてもよいです。学歴は大学以降のみ記載してください。

③出演歴 Experiences

コンサートの出演歴を書きます。作曲家の場合は作品演奏歴を書いてください。他に書けることが少ない場合は、小さな経験でもいいのでここを充実させてください。

③受賞歴 Awards

コンクールなどで受賞歴があればこちらに書きます。国際的な賞や、一般部門での受賞でない限り、子供の頃の経歴は不要です。学部生の場合、高校生部門などを書いても結構です。受賞歴が無くても、奨学金を得ていたらこちらに書きましょう。

④Commissions(作曲家のみ)

作曲家で他人から依頼を受け書いた経験がある場合記します。

⑤Recordings

もし商業的な録音作品がある場合はこちらに記します。デジタルリリースでも書くことができます。コンクールなどの記念 CD でも、一般発売されていれば書きましょう。録音における自分の役割(ソリスト、オーケストラに参加など)も記します。

⑥Publications

楽譜や文章の出版歴がある場合はこちらに記します。

⑦Teaching Experience

もし講師歴などがあればこちらに書きましょう。教員免許がある場合もこちらに書きましょう。

⑧Language

少しでもわかる言語は書きましょう

Japanese – Native

Korean – Intermediate Writing & Speaking

などのように謙遜せずに、少し大げさに書くらしいの気持ちで記載しましょう。

(あくまで少しです。謙遜して能力を低めに書かいて得をすることはありません。)

⑨その他注意点

・見やすいレイアウトを心掛ける。文字は最低10pt以上、11pt程度を目安に。

→フォント選び

欧文フォントは日本人の文字に対する感覚で選ぶと失敗することが多いです。欧米人が読むことを前提に、読み手に優しいものを選んでください。欧米で一般的なフォントを使いましょう。ひと昔前までは Times New Roman と Arial が主流でしたが、これらを古臭く感じる人もいます。

Calibri, Helvetica, Gill sans などのすっきりしたモダンなサンセリフフォント、クラシックな感じのするセリフフォントを選ぶのであれば、Garamond、Georgia、Dido あたりが無難です。フォントサイズは 12 程度にしましょう。必ず一つのフォントで統一してください。

・枚数は A4 で 2 枚まで。研究者や大学教員を目指すケースを除き、一般的に長すぎる CV は不要です。

・掲載する項目順は提出先によって考えましょう。学生の間は教育歴から並べましょう。選考する側が CV に目を通すのは一瞬です。目立つ重要なものを先に、あまり見栄えのしない経歴は最後のほうに。例えば語学が得意でないのに、最初のほうに書いてしまうとネガティブな印象を持たれてしまいます。その場合は無理に掲載しなくても結構です。また、音楽に関係のない経歴はよほど好印象を与えることでない限り掲載する必要はありません。

・固有名詞は勝手に訳さずに英語の正式名称をネット検索できがしましょう。コンクールや学校名、奨学金名などに注意してください。

交換留学 志望動機書の書き方について

Motivation Letter もしくは Personal Statement など英語でも様々な名前があります。交換留学先の求める書類のタイトルを選びましょう。Motivation Letter (Letter of Motivation)は、何故あなたがこの機会を求めているのかということをメインに、Personal Statement (Statement of Purpose)は何故あなたが応募するプログラムなどにふさわしいのかを、それぞれ説明する文章です。

最上部(ヘッダー)は以下の形が一般的です。

Kazune GEIDAI

Kazune@personalmail.jp

Motivation Letter

Dear Sir / Madam

(担当者がわかる場合は Mr/Ms を使って名前を書く)

名前とコンタクトを右上に。コンタクトは他の CV などを書いてあるので、メルアドで十分です。だいたい A4 一枚におさまるように、多くて二枚目の途中で終る程度にしましょう。

パラグラフは4つほど。

1st Paragraph: Introduction 英文の基本として、最初にこれから何を書くのかを宣言します。

例 自己紹介、このプログラムに応募することを伝える。

Middle Paragraphs: Body 以下順番は自由ですが、このプログラムの重要性を述べます。2-3 程度のパラグラフに内容をまとめてください。

- ① 何故このプログラムが自分に必要・重要なのか
→教授をよく知っている、その国の作曲家をレパートリーの中で重要視しているなど
(その教授や国の強み、特色に触れるとなおよい。受入を決めるのは教授であることを意識して)
- ② 何故このプログラムに自分がふさわしいのか
→自分のこれまでの経験や、強みを恥ずかしがらずにアピールする
講習会で学んだ経験から海外で学ぶことを勧められた
コンクールで賞を取るなど、ある程度の基礎力を持っているので多様な文化に触れたい
- ③ このプログラムが自分にどのような影響を与えるのか(将来への見通し)
将来は現地のオケのメンバーになりたい、コンクールに挑戦したい、など
- ④ 現地でしか出来ないことをアピールする

学校の特色を書く、その国の特徴に触れるなど。

「西洋で音楽を学ぶ」などの一般論は不要です。西洋・ヨーロッパではなく、行きたい国のことを書いてください。

(漢字を学ぶにはアジアに行くことが重要だからあなたの学校に行きたいです。と言われたら、日本じゃなくて中国や台湾じゃダメなの？と思いませんか?)

Last Paragraphs: Conclusion

そして最後に、読んでくれた人へのお礼と、機会をもらえたら最大限に活用すること、その準備ができていることなどを強調します。

英作文におけるパラグラフの構造はソナタ形式とちょっと似ています。

(主題は一つですけどね)

Topic Sentence <T>このパラグラフで述べるメインピックを簡潔に書く

Support Sentence<S>トピックを広げていく文章。話題を広げたり、理由を述べたりする。

Conclusion<C>最後に最初に述べたことを簡潔にまとめ、言いたいことを言い切る。

例

<T>Germany is an ideal place for me to study music. **<S1>** German music from different times, such as of Bach, Schumann, Hindemith, Lachenmann and many others had encouraged me to expand my expression and techniques in Violin performance. **<S2>**Listening to recordings of German performers, while it's pure joy, has always given me many ideas and different perspectives for my interpretation. **<C>**This wondrous opportunity to study under German performers, and visit concerts in the meantime, as well as learn the other part of German culture would be my dreams come true.

・その他英文の基本ルール

B (bold/ボールド) 強調したいときに使います

I (Italic/イタリック) 斜体。作品のタイトルや、英語以外の外国語に対して使います。

例 Olivier Messiaen *Quatuor pour la fin du temps*

I play Japanese traditional musical instruments such as *Shamisen* and *Koto*.

全角を使わない

カンマ、ピリオドの後は半角スペースを空ける

誤 Apr.1.2019 正 Apr. 1. 2019

誤 Kyoto,Japan 正 Kyoto, Japan

Kazune GEIDAI

Oe Kutsukake Cho 15 , Kyoto, Japan

Phone: +81 (0)75-0123-4567

Email: kazune@samplemail.jp

Website: <https://kazune-geidai.com>

Education

Apr. 2019 - current

Graduate School of Music, Kyoto City University of Arts, Japan

Master of Music in Flute performance

Apr. 2015- Mar. 2019

Faculty of Music, Kyoto City University of Arts, Japan

Bachelor of Music in Composition

Performance Experiences

Selected Solo and Chamber Experience

Master's Recital, Auditorium of Kyoto City University of Arts, Kyoto, Sep. 2019

Chamber Concert, Beethoven *Serenade op.25*, Barockzaal, Kyoto, Aug. 2018

Selected Orchestral Experience

Principle Flute, Kyoto City university of Arts Orchestra, 2014 to present

Award, Honors and Scholarship

2nd Prize 20th Japan Composition Concours 2018

Finalist 6th Kyoto Flute Competition, Kyoto, 2018.

Recipient Scholarship for music student, The Meiji Yasuda Cultural Foundation, 2017

Teaching Experience

2017-current Private Horn Lesson (Self Employed)

Kazune GEIDAI

15 Oe Kutsukake Cho , Kyoto, Japan

Phone: +81 (0)75-0123-4567

Email: kazune@samplemail.jp

Website: <https://kazune-geidai.com>

Education

- 2019 – current **Kyoto City University of Arts, Japan**
Graduate School of Music, Master of Music in Flute performance
- 2015 – 2019 **Kyoto City University of Arts, Japan**
Faculty of Music, Bachelor of Music in Composition

Performance Experience

Selected Solo and Chamber Experience

- 2019 Master's Recital, Auditorium of Kyoto City University of Arts, Kyoto
- 2018 Chamber Concert, Beethoven *Serenade op.25*, Barockzaal, Kyoto

Selected Orchestral Experience

- 2014 - present **Principle Flute**, Kyoto City University of Arts Orchestra, 2014 to present

Award, Honours and Scholarship

- 2018 **2nd Prize** 20th Japan Composition Concours
- 2018 **Finalist** 6th Kyoto Flute Competition, Kyoto
- 2017 **Recipient** Scholarship for music student, The Meiji Yasuda Cultural Foundation

Teaching Experience

- 2017- present Private **Horn Lesson** (Self Employed)
- 2019 obtained **Japanese National Teaching Certificate** for Highschool (Music)